

[10] エネルギー史研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13828>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 10, 1979-03-03. 九州大学附属図書館付設記録資料館産業経済資料部門
バージョン：
権利関係：



エネルギー史研究ノート(第一号)第九号) 総目録

No.1 (一九七三年五月)

はじめに

- 明治前期における造幣局と石炭……………秀村 選三
- 一・二の石炭資料の紹介……………武野 要子
- 幕府領肥後天草郡の石炭史料……………松下 志朗
- 明治期電灯会社の「従事者」についての若干の資料……………東定 宣昌

- 九州の明治大正期における電力事業雑感……………長野 運
- 東京日々新聞における石炭関係主要記事(一)……………斎藤 俊彦
- 明治二〜一四年石炭輸出統計資料……………今津 健治
- 筑豊石炭礦業史研究文献資料目録抄(一)……………田中 直樹
- 炭坑絵馬の「請元、北島忠助」に関する資料……………細川 章
- 口ノ津港改修工事関係資料……………今津 健治
- 「電気之友」誌にみる九州の電気事業(一)……………東定 宣昌

No.2 (一九七三年一二月)

- 幕末期肥前多久地方における炭坑労働者の一考察(一)……………秀村 選三
- 幕末鯨組の石炭使用……………藤本 隆士
- 雇英人ポッターに関する若干の史料……………今津 健治
- 長崎の新聞、雑誌にみえる石炭(一)……………武野 要子
- 日田水電会社石井発電所の生活についての聞き書き……………東定 宣昌
- 筑豊石炭礦業史研究文献資料目録抄……………田中 直樹
- 「電気之友」誌にみる九州の電気事業(一)……………東定 宣昌
- 東京日々新聞における石炭関係主要記事(一)……………斎藤 俊彦

- 佐賀新聞目録年表(一)……………八田千恵子
- 八幡製鉄所「S式炉日誌」の紹介……………松下 志朗
- 副島家文書目録(石炭関係分)……………秀村選三 細川 章
- 福岡県文化会館「宮崎文庫」について……………

No.3 (一九七四年五月)

- 近世筑豊の石炭にかんする覚書……………松崎 武俊
- 幕末期肥前多久地方における炭坑労働者の一考察(二)……………秀村 選三
- 明治初期の溜池鉱害資料……………上旬 忠
- 外人技師による明治初期三池炭坑の調査……………
- ライマンとゴットフレ……………今津 健治
- 三池炭坑と住友……………川崎英太郎
- 明治期福岡地方石油史……………
- 石炭油から石油へ(一)……………入江 寿紀
- 肥前峠山炭坑とその開発者安部宗五郎……………細川 章
- 安部家文書目録(石炭関係分)……………細川 章
- 「東京日々新聞」における石炭関係主要記事(二)……………斎藤 俊彦
- 「電気之友」誌にみる九州の電気事業(二)……………東定 宣昌
- 「日本外交文書」に見える高島炭坑関係の資料索引……………崔 泰鎭
- 筑豊石炭礦業史研究文献資料目録抄……………田中 直樹
- その4……………
- 「日本労務管理年誌」の編集過程を顧みて……………左合藤三郎
- 佐賀新聞目録年表(二)……………八田千恵子

No.4 (一九七四年一二月)

- イギリス史におけるエネルギー……………角山 栄

- 明治前期におけるエネルギー使用の諸問題……………今津 健治
- 明治中期肥前多久における坑夫に関する史料(一)……………秀村 選三

- 明治期の「電気事業主任技術者」と工学校電工科卒業生……………東定 宣昌
- 明治初期炭坑国有化における一問題……………安藤 保
- 北海道地方炭鉱の開発と展開概況(一)……………左合藤三郎
- 明治期福岡地方石油史(二)……………入江 寿紀
- 明治二五年麻生太吉・荘田平五郎の往復書簡……………東定 宣昌
- 北九州の電気事業草創期……………米津 三郎
- 「電気之友」誌にみる九州の電気事業……………東定 宣昌
- 「草場佩川日記」の中の石炭記事……………細川 章
- 瀬戸内の神と石炭——金刀比羅宮……………宮崎 太郎
- 昭和初期の採炭方式の改革について……………三宅 義男
- 佐賀新聞記事目録年表(三)……………八田千恵子
- 書評 吉村朔夫著「イギリス炭鉱労働史の研究」……………和田 一夫

No.5 (一九七五年六月)

- 明治二〇年代大阪石炭市場事情……………岡本 幸雄
- 紡績企業発達との関連において……………
- 明治期における水力の利用について……………今津 健治
- 藤原式水車の場合……………
- 坑夫に関する史料(二)……………秀村 選三
- フェリング炭礦の爆発……………和田 一夫
- 明治期福岡地方石油史(三)……………入江 寿紀

明治二〇年前後麻生炭田炭坑の棟梁に関する一考察……………東定 宣昌

北海道地方炭鉱の開発と展開概況(Ⅰ)……………左合藤三郎

許斐鷹介関係文書について……………北村 慶子

佐賀新聞大正期炭坑記事(Ⅰ)……………町田 保次

肥前穴獄石炭山経営と資金調達(Ⅰ)……………坪内 安衛

『電気』の友誌にみる九州の電気事業(Ⅴ)……………東定 宣昌

坑夫の履歴書(Ⅰ)……………田中 直樹

女坑夫の記録……………田中 豊一

三井田川炭礦における労働者の募集と解雇(Ⅰ)……………金子 雨石

瀬戸内海における神と石炭(Ⅰ)……………宮崎 太郎

麻生文書資料紹介(Ⅰ)……………—— 大山祇神社——……………宮崎 太郎

—— 明治三七年五月麻生太吉より

三井銀行・三井物産両社長宛書簡——……………今野 孝

『わが石炭資料収納庫』報告記……………細川 章

佐賀新聞記事目録年表(Ⅳ)……………八田千恵子

No.6 (一九七六年三月)

三池炭礦における四人労働の役割……………田中 直樹

麻生炭田炭坑における地補金について……………東定 宣昌

明治中期若松築港に関する一資料——高橋達「若松築港大計画」……………秀村 選三

必要ヲ論ズ」紹介——……………秀村 選三

筑豊石炭坑業組合初代総長 石野寛平略歴書(手記)……………米津 三郎

佐賀新聞大正期炭坑記事(Ⅰ)……………町田 保次

麻生文書資料紹介(Ⅰ)……………—— 石炭借区開坑免許券証御渡分

—— 人別渡帳……………今野 孝

肥前穴獄石炭山経営と資金調達(Ⅱ)……………坪内 安衛

肥前多久「御屋形日記」の中の石炭記事(Ⅰ)……………細川 章

『電気』の友誌にみる九州の電気事業(Ⅵ)……………東定 宣昌

明治期福岡地方石油史(Ⅳ)……………入江 寿紀

北海道地方炭鉱の開発と展開概況(Ⅱ)……………左合藤三郎

三井田川炭礦における労働者の募集と解雇(Ⅱ)……………金子 雨石

明治期の工場用石炭消費量統計……………今津 健治

佐賀新聞記事目録年表(Ⅴ)……………八田千恵子

No.7 (一九七六年一〇月) ロンドンデリ候の炭礦経営と一八四四年労働争議……………和田 一夫

貝島家の事業経営と鮎川義介の関係について——日産財閥形成過程によせて——……………宇田川 勝

明治一〇年三井物産会社の肥前多久石炭約定書……………秀村 選三

筑豊地方の炭鉱における友子同盟について……………福沢 重利

炭鉱閉山始末記(Ⅰ)……………川内 昇

明治期福岡地方石油史(Ⅴ)……………入江 寿紀

肥前多久「御屋形日記」の中の石炭記事(Ⅱ)……………細川 章

北海道地方炭鉱の開発と展開概況(Ⅲ)……………左合藤三郎

『電気』の友誌にみる九州の電気事業(Ⅶ)……………東定 宣昌

肥前穴獄石炭山経営の資金調達(Ⅱ)……………坪内 安衛

麻生家文書資料紹介(Ⅱ)……………—— 目尾村における麻生太吉の石炭採掘に関する資料——……………今野 孝

明治期の工場用石炭消費量統計(続)……………今津 健治

佐賀新聞記事目録年表(Ⅷ)……………八田千恵子

佐賀新聞大正期炭坑記事(Ⅱ)……………町田 保次

No.8 (一九七七年六月) 第四六回社会経済史学会報告資料特集

創業期高島炭坑の経営に関する一試論……………武野 要子

麻生系炭坑における納屋制度の生成過程……………東定 宣昌

大正・昭和初頭三井・三池炭礦における鉱夫雇用状況の推移……………畠山 秀樹

動力革命下における水車動力 エネルギーと経済発展……………末尾 至行

—— 東京府・京都府の場合——……………角山 栄

—— 問題提起に寄せて——……………角山 栄

日本におけるエネルギーの展開・序説……………秀村 選三

外航海運と経済発展……………—— 石炭との関連を中心に——……………安場 保吉

明治期における蒸気力と水力の利用について……………今津 健治

財閥と炭鉱業……………—— 三菱を中心に——……………小林 正彬

保護鉱夫問題と採炭機構の合理化……………—— 「鉱夫労務扶助規則」を中心として——……………田中直樹 荻野喜弘

日本資本主義確立期における東アジア石炭市場と三井物産……………—— 上海市場を中心に——……………山下 直登

電気エネルギーと工場電化……………井上洋一郎

No.9 (一九七七年一二月) 官営三池炭鉱の払下げをめぐるその背景と払下げ価格の根拠などの再考……………四宮 俊之

日本資本主義確立期における

上海石炭市場の展開……………山下 直登
大阪平野南部の風車灌漑

—堺市海岸地域の風車動力の推移— 出水 力
明治のガス事業

—福岡を中心として(一)—……………入江 寿紀
北海道地方炭鉱の開発と展開概況(要覧及び覚書)

1. 開坑沿革・鉱業権者編(Ⅴ)……………左合藤三郎
肥前多久「御屋形日記」の中の

石炭記事(Ⅱ)……………細川 章
日田広瀬家の「三池行日記」……………安藤 保

麻生家文書資料紹介(その4)
—「坑夫取締日誌(一)」—……………今野 孝

明治中期海軍予備炭田をめぐる一資料
—佐賀県杵島郡北方村神田家文書— 秀村 選三

「電気」誌にみる九州の
電気事業(Ⅷ)……………東定 宣昌

北部九州における炭坑札の概観(一)……………稲富 清
炭鉱閉山始末記(一)……………川内 昇

縁は妙なるもの—労務三傑余談—……………左合藤三郎
若松港石炭統計書について……………今津 健治

佐賀新聞記事目録年報(Ⅷ)……………八田千恵子
佐賀新聞大正期炭坑記事(Ⅳ)……………町田 保次

○『エネルギー史研究ノート』No.9を刊行してから、いつの間にか一年以上の月日が流れてしまいました。早くから原稿をお寄せいただいた方には、まことに申し訳ありませんでした。

○もっとも沈滞していたために刊行出来なかったものではありません。昨秋には筑豊炭鉱遺跡研究会の発足、今年には、近く九州大学に石炭研究資料センター設置のこともあり、本誌も題名を『エネルギー史研究』と改め、新しい発展のために、種々想いをめぐらしていたわけではあります。

○今回も力のこもった労作、貴重な小論、資料を載せることができました。また昨年四月麻生の深町純亮氏の御世話と宮崎太郎氏の解説で巡検した筑豊の炭礦遺跡も紹介され懐しく思いますが、たんに懐古趣味でなく、保存を如何にするか、多くの人々に語りかけ、もっと行動しなければならぬを感じます。

○多久市では本誌にも屢々論稿をいただいた川内昇助役の御努力で歴史資料館が建設され、中近世の古文書と共に石炭資料にも重点をおかれる由。心から期待するものです。

○本誌は今後も学界、民間の研究者、エネルギー史に関心をもつ人々の共通の広場として、余り肩をはずらず、野趣あるものとしてゆきたいと思えます。『ノート』の時代と変らずに、種々の御原稿をお寄せ下さい。石炭を通し、エネルギー史を通して、地域に根ざした学問を育ててゆこうではありませんか。(S・H)

エネルギー史研究 第一〇号

—石炭を中心として—

一九七九年三月三日発行

編集

九州大学経済学部日本経済史研究室内

エネルギー史研究会

発行

福岡市中央区薬院四丁目一三一五一

財団法人 西日本文化協会

電話〇九二(五三)四五三八(代表)

振替口座 福岡一五九一八